



GIFU



SEINO

岐阜県 歴史的建築物目録



CHUNO



TONO



HIDA

目次

岐阜地区 GIFU AREA

2 川原町通りの町並

3 伊奈波神社参道の町並

- | | |
|---|---|
| 4 旧岐阜県庁舎
羽島市役所 | 9 伊奈波神社参道の町並
久屋町通り |
| 5 じゅうろくてつめいギャラリー
正法寺 | 中山道の町並
山田邸 |
| 6 桑原邸
旧日下部合資会社
岐阜県美術館 | 10 城下山口の里
松原家長屋門
岐阜城
岐阜市歴史博物館 |
| 7 郷邸
上松邸
岡本邸
笹川邸 | 11 羽島市勤労青少年ホーム
ほづみ幼稚園園舎
真正公民館
啓文社記念館 |
| 8 伊奈波神社
川原町通りの町並
御館街道の町並
益屋町通り | |

西濃地区 SEINO AREA

12 大垣市赤坂町の町並

13 谷汲門前町の町並

- | | |
|---|---|
| 14 三甲テキストスタイル株式会社
大垣市総合体育館 | 20 イビデン(株)東横山発電所
藤橋歴史民俗資料館 2号棟
藤橋歴史民俗資料館 3号棟
谷汲(たにくみ) 門前町の町並 |
| 15 千歳楼(せんざいろう)
明星輪寺本堂 | 21 鳥本家住宅
石原家住宅
大垣城ホール
黒野駅ミュージアム(旧黒野駅) |
| 16 墨俣町寺町の町並
中山道垂井宿の町並 | 22 旧さくら湯
奥田家水屋 |
| 17 イビデン(株)西大垣変電所
水屋造り臼井家
旗本東高木家土蔵
旧戸田鋭之助邸正門と外堀 | 金蝶園総本家 本店
都湯 |
| 18 墨俣宿脇本陣(安藤家)
受圓寺 山門 四足門
圓通寺 | 23 大垣共立銀行本店
大垣共立銀行新館
青木医院旧診療所
小森医院旧診療所 |
| 19 美濃赤坂駅
養老鉄道 西大垣駅
大垣市赤坂町の町並
養老鉄道 養老駅 | |

中濃地区 CHUNO AREA

24 旧中山道太田宿

25 郡上八幡の町並

- | | |
|---|--|
| 26 おもだかや民藝館(みんげいかん)
大乘寺(だいじょうじ)山門 | 30 原邸
さんぶる工房
布屋(ぬのや)原酒造場
大船(おおふね)神社(阿弥陀坂) |
| 27 黒川の東座(あずまざ)(歌舞伎小屋)
中山道御嶽宿商家竹屋 | 31 佐久良太神社奥之院
信洲屋本店
富加駅本屋
可児駅本屋 |
| 28 宗祇(そうぎ)水のある町並
御師(おし)の里・
石徹白(いとしろ)の町並 | |
| 29 (有)須田写真館
タルヤ雑貨店
旧有知(ウチ)学校
旧中山道太田宿 | |

東濃地区 TONO AREA

32 旧中山道大井宿

33 岩村の町並

- | | |
|--|---|
| 34 曾我家住宅
加子母郷土館(旧加子母村役場) | 38 通信資料館(ていしんしりょうかん)
(旧明智郵便局)
宿役人の家
古屋家住宅
中山道ひし屋資料館(旧古山家住宅) |
| 35 常盤座
櫻堂薬師本堂 | 39 日本大正村資料館
五毛座(地芝居小屋)
笹乃家温泉旅館
多治見輸出陶磁器完成協同組合 |
| 36 櫻堂薬師仁王門
櫻堂薬師芝居舞台 | |
| 37 旧間家倉庫
開元院山門
天猷寺(てんにゅうじ)ハナノキ門
明智回想法センター | |

飛騨地区 HIDA AREA

40 高山の町並

41 古川の町並

- | | |
|--|---|
| 42 田上家住宅(匠の館)
銀花荘(須賀家住宅) | 47 高山豊明台(ほうめいたい)組の町並
フナツフト
屋台蔵
古川の町並 |
| 43 湯之島館
旧田中家住宅(丹生川民俗資料館) | 48 飛騨小坂駅
十六館
清水楼
鳳凰座 |
| 44 加藤家住宅
都筑家住宅 | 49 旧蒲たばこ店
三ノ町倶楽部
櫻山八幡宮 櫻山日光館
飛騨国府駅本屋 |
| 45 清原家住宅(小坂町郷土館)
日下部味噌醤油醸造煉瓦館
川尻家住宅 | |
| 46 岡田家住宅板倉
三木家住宅
千鳥格子の御堂
飛騨「荘川の里」 | |

岐阜地区



川原町通りの町並

旧岐阜町は、戦国時代に斎藤道三が城下町として整備しはじめたことに遡る。その後、岐阜城に入城した織田信長により岐阜城下町の基礎がつくられた。

旧岐阜町に位置した長良川沿いの湊町・玉井町・元浜町からなる町並みは通称「川原町」と言われる。通り沿いには格子戸のある町家が今も残り古い町並みを形成している。

この地は、長良川の水運を利用した川湊として栄え流通の拠点となった。陸揚げされたものの中には、奥美濃から木材美濃和紙なども含まれ、岐阜提灯や岐阜うちわなどの伝統工芸に深く関わった。



県の中南部に位置し、南部は濃尾平野からなり、北部には山々が連なる。
古くは旧岐阜町や旧加納町は城下町として栄え、人々や文化が集積した。また、中山道をはじめとする街道や長良川などの水運にも恵まれたため、交通結節点として経済的発展を遂げた。

現在もこの地域は、県庁所在地として鉄道・道路などの重要な地点となっている。



伊奈波神社参道の町並

旧岐阜町は大きく分けて、長良川から順に南に下って川原町地区、井の口地区、伊奈波地区に分かれ、伊奈波地区は一番南に位置する。戦国時代、斎藤道三が金華山から移設した伊奈波神社を中心に門前町が形成された。現在でも伊奈波神社参道周辺に、善光寺（織田信長が信州の善光寺仏を安置したことが起源）をはじめとした多くの寺社が残っており、商人町の名残の町屋建築が点在する。明治、大正期に行政中心であったため、歴史的な洋館等も混在する町並みでもある。



▲伊奈波神社

旧岐阜県庁舎



所在地	岐阜市司町1番地1
所有者	岐阜県
建築時期	大正13年
建造規模	鉄筋コンクリート造3階建
屋根	陸屋根
外壁	人造石洗い出し仕上げ

概要

大正13年10月15日に完成。外壁に華やかな装飾はないが、ファサードは古典主義建築の意匠となっている。玄関ホールは県産の大理石を使い豪華な空間となり、美しいステンドグラスも現存する。建築顧問として建築構造学者の佐野利器や県出身の矢橋賢吉が関わっている。(内覧不可)

羽島市役所



所在地	羽島市竹鼻町55番地
所有者	羽島市
建築時期	昭和34年
建造規模	鉄筋コンクリート造5階建
屋根	陸屋根
外壁	コンクリート打ち放し 一部タイル
備考	日本建築学会

概要

羽島市出身であり、日本を代表する建築家、坂倉準三の設計。2階からのアプローチ、南北に設置されたスロープ、建物周辺の池など先駆的な計画が随所に散見される。

じゅうろくてつめいギャラリー



所在地	岐阜市徹明通1丁目3
所有者	㈱十六銀行
建築時期	昭和12年
建造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階、地上3階建
屋根	陸屋根
外壁	人造石ブロック張り、 一部花崗石張り
備考	岐阜市都市景観重要建築物

概要

十六銀行旧徹明支店の地域開放型ギャラリー。内部は、高い天井と中二階の木製手すりの回廊が一体となったフロア、銀行時代に使用されていた金庫や応接室など、かつての面影を残した開放的でレトロな空間が広がっている。北面外観は西洋の古典建築を模した柱と柱上の水平部分（エンタブラチュア）が突出し、奥行き感のある重厚な造り。飾り金物・石細工の飾りなども美しい。

正法寺



所在地	岐阜市大仏町8
所有者	個人
建築時期	文政3年(1820年)頃
建造規模	木造三層
屋根	日本瓦
外壁	土塗
備考	岐阜市指定文化財

概要

黄檗宗の寺院。本尊の釈迦如来は、岐阜大仏として知られている。各層のプロポーシオンや瓦意匠の一部に、一般的な日本の寺院とは異なる形態が見られる。

桑原邸



所在地 岐阜市玉井町 23 番地

所有者 個人

建築時期 江戸時代後期

建造規模 木造 2 階建

屋根 日本瓦葺

外壁 漆喰

概要

江戸時代に、木材の商いなどで栄えた町並みに建ち、県下有数の豪商として栄えた家である。



旧日下部合資会社

所在地 岐阜市米屋町 24

所有者 ㈱インターナショナルクリエイティブ

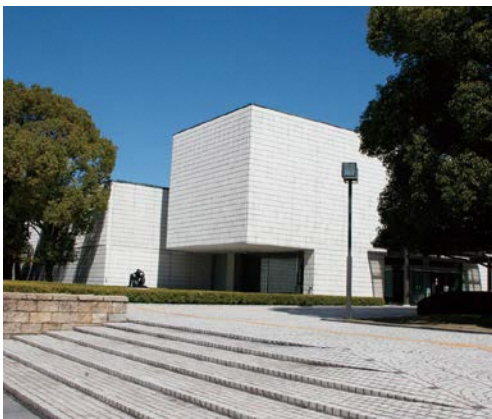
建築時期 大正 2 年

建造規模 煉瓦造 地下階 3 階建

屋根 マンサード屋根

概要 入口は石段と左右には縦溝を施された大理石の柱が使われている。マンサード屋根、大理石立柱の玄関、外壁の煉瓦、花崗岩が特徴。

備考 岐阜市都市景観重要建築物



岐阜県美術館

所在地 岐阜市宇佐 4 丁目 1-22

所有者 岐阜県

建築時期 昭和 57 年

建造規模 鉄筋コンクリート造
一部鉄骨鉄筋コンクリート造 2 階建

屋根 陸屋根一部寄棟形式

外壁 タイル

概要 ボリュームのある建物を幾多の立方体に分割することにより全体に小さくみえるように工夫されている。

備考 中部建築賞





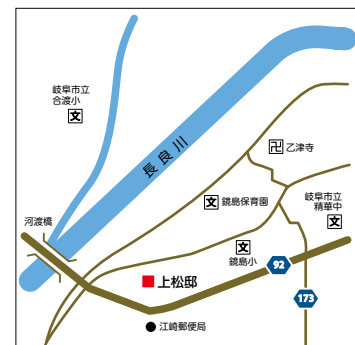
郷邸

所在地 岐阜市御望 904
所有者 個人
建造規模 木造 2 階建 (母屋)
屋根 日本瓦葺
外壁 板張漆喰
概要 岐阜市の北西部に広がる田園地帯に位置する住宅で、切妻の母屋が数棟、倉、土塀、門などは、隣接する本家と共に現在も威容を誇っている。



上松邸

所在地 岐阜市鏡島西 3 丁目 2 番 7 号
所有者 個人
建築時期 明治期
建造規模 木造 2 階建
屋根 日本瓦葺
概要 この地方の大地主の住宅で、当時は合渡橋 (ごうどばし) の近くに建っていたが、長良川の大改修で現在の位置に移築された。



岡本邸

所在地 岐阜市金屋町 1 丁目 10
所有者 個人
建築時期 江戸期
建造規模 木造 2 階建
屋根 日本瓦葺
外壁 漆喰下見板張
概要 所有者は代々岐阜で鑄造を行っており、昔は吊鐘が主であった。建物は文化文政以前のもと思われる、卯立の上がった屋根、これらに連なるように建つ土蔵など当時の様子がうかがえる。



笹川邸

所在地 岐阜市山口町 33
所有者 個人
建造規模 木造 2 階建
屋根 日本瓦葺
外壁 漆喰
概要 道路面の千本格子と黒漆喰壁、瓦葺切妻屋根の調和がとれた建物。





伊奈波神社

所在地 岐阜市伊奈波通り1の1

建築時期 昭和8年

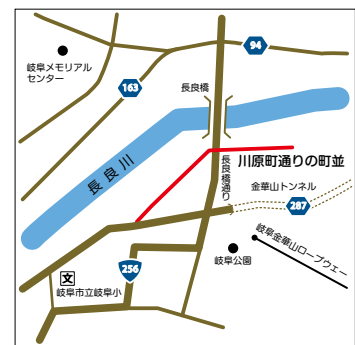
概要 斎藤道三が伊奈波山城を築城する時、椿原(つばきはら)から現在地に移された。明治24年(1891年)の濃尾震災により消失。現在の建物は昭和8年(1933年)に再築されたものである。



川原町通りの町並

所在地 岐阜市湊町、玉井町、元浜町

概要 道三、信長の時代から長良川の川湊として美濃和紙問屋や材木屋が並んで栄えた湊町、玉井町、元浜町と続く通り。今も古い町並や蔵が並び、かつての賑わいをしのぶことが出来る。



御鯨街道の町並

所在地 岐阜市～笠松町

概要 岐阜街道は「御鯨(おすし)街道」と呼ばれている。沿道には、今なお、昔をしのばせる建物が点在している。江戸時代、この地を治めた尾張藩が、毎年長良川の御鯨を幕府に運搬した岐阜街道を別名御鯨街道と呼び、旧岐阜町の町屋が並ぶ。



益屋町通り

所在地 岐阜市益屋町～今町

概要 道三、信長が作った城下町の主要道路として、沿道には、町家や蔵、寺院等が並ぶ。





伊奈波神社参道の町並

所在地 岐阜市伊奈波通1丁目、2丁目
概要 明治ころまで芝居小屋などがあった繁華街で、現在でもその風情が色濃く残り老舗の店舗も見られる。江戸時代は岐阜町の南に位置し、明治時代頃まで芸小屋などもあり、春には枝垂桜の並木通りとなる。



久屋町通り

所在地 岐阜市魚屋町～久屋町～西材木町
概要 金華山を正面に望む南北に走る町で、岐阜町形式時の4町の一つとして歴史は古い。承応町絵図には久屋町と記されている。今なお美しい町家の町並が残っている



中山道の町並

所在地 岐阜市高田～加納～河渡
概要 加納は城下町で中山道の宿駅。江戸時代になり、岐阜町にかわり加納町が発展。



山田邸

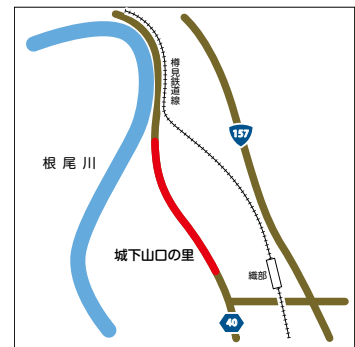
所在地 山県市岩佐 575
所有者 個人
建築時期 江戸末期
建造規模 木造 2階建
屋根 日本瓦葺
外壁 漆喰・板張
概要 田園地帯に建ち一際目立つ建物。江戸末期の建築当時は庄屋として、その後、銀行、歯科医院などにも使用された。





城下山口の里

所在地 本巣市山口
概要 古田織部に関する「祐國寺」と「筑間家」が現存する市場街道。現在も城下の町並を色濃く残している。



松原家長屋門

所在地 羽島郡岐南町薬師寺 5-23
所有者 個人
建築時期 江戸末期
建造規模 木造平屋建
屋根 日本瓦葺
外壁 漆喰荒壁（小舞竹、貫）
概要 江戸末期の建造。濃尾震災にも倒壊を免れた。この地域には、このような長屋門が多数ある。
備考 有形文化財



岐阜城

所在地 岐阜市金華山天守閣 18
所有者 岐阜市
建築時期 昭和 31 年（再建）
建造規模 鉄筋コンクリート造 4 階建
屋根 入母屋形式
外壁 しっくい塗
概要 昭和 18 年に焼失した復興天守を、市民、財界の浄財により、募金で昭和 31 年に再興したもの。



岐阜市歴史博物館

所在地 岐阜市大宮町 2-18-1
所有者 岐阜市
建築時期 昭和 60 年
建造規模 鉄骨鉄筋コンクリート造 3 階建
屋根 寄棟形式（銅板瓦葺き緑青仕上げ）
外壁 花崗岩張り
概要 岐阜公園内に位置し、外観の花崗岩は重厚感があり、落ち着いた色調は公園空間と調和している。
備考 中部建築賞





羽島市勤労青少年ホーム

所在地 羽島市竹鼻町 86 番地
所有 羽島市
建築時期 昭和 39 年
建造規模 鉄筋コンクリート造 2 階建
屋根 陸屋根
外壁 コンクリート打ち放し
概要 市出身の坂倉準三氏の設計。
 平面計画は矩形部分と曲線部分
 が組み合わされた計画。曲線部外壁は
 コンクリート研り出しの素材感が重厚。



ほづみ幼稚園園舎

所在地 瑞穂市只越 500 番地
所有 瑞穂市
建築時期 昭和 43 年
建造規模 鉄筋コンクリート造 2 階建
屋根 切妻形式
外壁 モルタル・塗装
概要 敷地の高低差を利用して扇形
 の保育棟と管理棟を渡り廊下で結んだ。
 平面計画に特徴があり、ファサードも
 印象的。



真正公民館

所在地 本巣市下真桑 1060 番地
所有 本巣市
建築時期 昭和 46 年
建造規模 鉄筋コンクリート造 2 階建
屋根 陸屋根
外壁 モルタル仕上
概要 直線的な外観に対して、内部
 は円形ホールと螺旋階段との曲線による空間
 で構成され、対照的に計画されている。



啓文社記念館

所在地 本巣郡北方町北方 1697-1
所有 株式会社 啓文社
建築時期 大正 15 年
建築規模 鉄筋コンクリート造 2 階建
屋根 陸屋根
概要 町内で現存する最も古い時期
 に建てられた鉄筋コンクリート造の建物。
 当時は出版社の事務所として使用され、
 現在は町のギャラリーに利用。



西濃地区



大垣市赤坂町の町並

岐阜県内を通る中山道 17 宿のひとつ赤坂宿は江戸から 56 番目の宿場町であるとともに、背後の金生山で大理石、石灰を産出し大きな石灰工場もいくつもある。町の中は宿場町の日態をよくとどめており、皇女和宮の宿泊地となったため事前に徹底的に整備され、見苦しくないようにという理由で街道筋のほとんどの家を幕府からの援助で建て替えた。

街の中心部に榊形（ますがた）の跡がある。榊形は道がクランク状に折れ曲がっている場所で、宿場町や城下町などに多く見られる。今では自動車の通行を配慮してゆるいカーブになっているが、榊形であったことはすぐわかる町並みになっている。

また、この地には明治期に栄えた赤坂湊があり、杭瀬川の水運を利用し西濃地方の多くの物産を運搬した。

常夜灯は、往時をしのばせる。



▲榊形の跡

県の西部に位置し、南部の濃尾平野は木曾三川からなる水郷地帯を成し、西部・北部地域は伊吹山をはじめとする山々が連なる。

この地域は、豊かな水にはぐくまれ多くの産業が発展したが、一方で多くの水害に見舞われた地域でもある。また、中山道の宿場町、大垣の城下町や谷汲の門前町など中世に栄えた町並も多く見られる。



谷汲門前町の町並

「たにぐみさん」の愛称で親しまれる当山は延暦 17 年 (798) に創建され、正式には「谷汲山華厳寺 (たにぐみさんげんじ)」という、その山号と寺号は醍醐天皇より賜り、その後は朱雀天皇より鎮護国家の道場として勅願寺に定められた。歴代の皇室、朝廷からも帰依厚く、いにしえより観音信仰の霊験あらたかな名利寺院として 1200 年余の歴史を誇る。

この寺を中心に開かれたのが谷汲門前町である。

門前町は地域特有の自然や歴史、伝統文化等を貴重な地域資源として利活用した魅力ある地域づくりの事例として「手づくり郷土賞」を受賞している。



▲谷汲山華厳寺

三甲テキスタイル株式会社



所在地	大垣市室村町3丁目74番地1
所有者	三甲テキスタイル株式会社
建築時期	大正3年
建造規模	レンガ造2階建(事務所棟・倉庫棟)
屋根	日本瓦葺(倉庫棟)
外壁	モルタル塗(事務所棟) レンガ(倉庫棟)
備考	内覧不可

概要

倉庫棟は赤レンガ造りの建築物、織物業の倉庫として使用されている。事務所棟はモルタル塗洋風建築で、大正期の様式が軒先や玄関などに多くみられる。内部の柱や天井等には華麗な装飾が施され貴重な近代遺産。大垣は豊富な地下水と水力発電所により多くの繊維工場が建設されたが、現存するものは少ない。

大垣市総合体育館

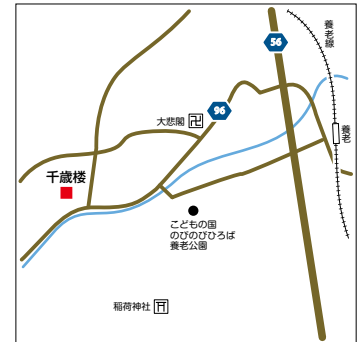


所在地	大垣市加賀野町4丁目62番地
所有者	大垣市
建築時期	昭和55年
建造規模	鉄筋コンクリート造2階建
屋根	寄棟形式
外壁	コンクリート打ち放し

概要

大垣市制60周年記念事業の一環として建設された。大規模な鉄筋コンクリート構造による大規模空間を構成するシェル構造が特徴的で、トップライトなどの配置により自然採光等に配慮した計画がされており、1981年に中部建築賞を受賞した建物。

千歳楼 (せんざいろう)

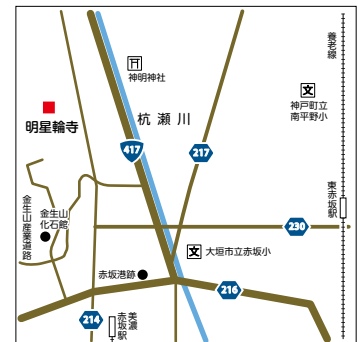


所在地	養老郡養老町養老公園 1079
所有者	岐阜県
建築時期	明治 13 年
建造規模	木造 2 階建
屋根	日本瓦葺
外壁	漆喰・板張
備考	国登録有形文化財

概要

明治期の姿をそのまま留める数寄屋造りの建物。千歳楼は三棟あり、総檜（ひのき）書院造の本館、茶室のような建物である数寄屋（すきや）風建物が 2 棟ある。玄関には山岡鉄舟の書が掛けられ、大階段を上がり 2 階大広間には当時の窓ガラスがそのままに残り、雄大な濃尾平野を一望することができる。

明星輪寺本堂



所在地	大垣市赤坂町 4610
所有者	明星輪寺
建築時期	文久 3 年
建造規模	木造入母屋造
屋根	瓦葺
備考	大垣市重要文化財

概要

明星輪寺本堂は、文久 3 年（1863 年）に大垣藩戸田家 10 代藩主戸田氏彬（とだうじあきら）によって再建された。虚空蔵菩薩が安置されていることから「虚空蔵堂」とも呼ばれる。境内にはカルスト地形の岩楽公園がある。正面は入母屋造りで、唐破風の向拝がつけられ、背面は切妻で、本尊が祀られている岩窟を覆う屋根が続いている。

墨侯町寺町の町並



所在地 大垣市墨侯町

概要

本通りから1歩入ったところには、古い寺院が多く、昔の面影を残す。町並に残る各寺院には文化財に指定されているものも多い。

中山道垂井宿の町並



所在地 不破郡垂井町垂井本町通り

概要

黒壁に格子窓がつく建物が数軒残っており、これらはかつての間屋場や旅籠として利用されていた。建物には火災予防のための「ぬれ釘掛けの釘」が現存する。



イビデン(株)西大垣変電所

所在地 大垣市西崎町 4-1
 所有 イビデン株式会社
 建築時期 大正 10 年
 建造規模 煉瓦造 2 階建
 外壁 煉瓦造
 概要 大正期にレンガ造りで建設。
 屋根は葺き替えられているが、レトロな外観が残されている。



水屋造り臼井家

所在地 大垣市釜筈 1 丁目 222
 所有 個人
 建築時期 明治時代
 建造規模 木造 2 階建
 屋根 日本瓦葺
 外壁 板張・漆喰
 概要 高く築いた石垣の上に、座敷及び土蔵が建つ。土蔵入口部分に底をもち、天井には上げ舟を確保した民家。



旗本東高木家土蔵

所在地 大垣市上石津町宮 218-1
 所有 大垣市
 建築時期 文政年間
 建造規模 木造 2 階建
 屋根 日本瓦土居葺
 外壁 格子なまご壁・白漆漆喰
 概要 この土蔵は交代寄合美濃衆と言われ、川奉行を勤めた高木家の「東高木家」陣屋跡に現存する唯一の建築物。
 備考 大垣市指定文化財・大垣市景観遺産



旧戸田鋭之助邸正門と外塀

所在地 大垣市丸の内 2-4
 所有 大垣市
 建築時期 明治 37 年
 建造規模 木造薬医門形式
 屋根 瓦葺
 概要 正門は薬医門形式であり、塀は船板を利用した船板塀である。現在は大垣市郷土館の正門・外塀として市民に親しまれている。
 備考 大垣市指定文化財・大垣市景観遺産





墨侯宿脇本陣（安藤家）

所在地 大垣市墨侯町墨侯 115
 所有 個人
 建築時期 明治 25 年頃
 建造規模 木造 2 階建
 屋根 日本瓦葺
 外壁 土壁・板張り
 概要 脇本陣は隣接する本正寺の山門として移築された門が残るのみであるが、再建されたこの建物も、脇本陣時代の構造を色濃く残している。
 備考 歴史文化遺産



受圓寺 山門 四足門

所在地 大垣市笠縫町 553-1
 所有 受圓寺
 建築時期 鎌倉末期～室町時代
 建造規模 木造四足門
 屋根 瓦葺
 概要 鎌倉末期から室町時代にかけての建造物であり、当時の様式・技法を伝え、門の額の形式にも室町期の面影を残している。
 備考 大垣市指定文化財



圓通寺

所在地 大垣市西外側町 1-32-1
 所有 圓通寺
 建築時期 天保年間（1830-44）
 建造規模 木造四足門
 屋根 瓦葺
 概要 大垣藩戸田家菩提寺である圓通寺の山門は、壮大な木造瓦葺の建造物で、1830-44年に再建されている。
 備考 大垣市指定文化財



塩田常夜灯

所在地 大垣市静里町 1721
 所有 大垣市
 建築時期 明治 13 年
 建造規模 木造
 屋根 銅板葺
 概要 三重県の桑名港から大垣赤坂港へ往来していた船の安全のため、中継港である塩田港付近に建立されたもの。
 備考 大垣市指定文化財・大垣市景観遺産





美濃赤坂駅

所在地 大垣市赤坂町字北岡ノ下 170
 所有 東海旅客鉄道株式会社
 建築時期 大正 8 年
 建造規模 木造平屋建
 屋根 一文字葺き（鉄板）
 外壁 下見板張
 概要 近接する金生山から石灰石を運ぶ中継駅としての役割や、赤坂宿に訪れる玄関口としても利用されている。



養老鉄道 西大垣駅

所在地 大垣市木戸町 910 番地
 所有 近畿日本鉄道株式会社
 建築時期 大正 2 年
 建造規模 木造平屋建
 屋根 日本瓦葺
 外壁 豎羽目板張
 概要 大正時代のレトロなたたずまいは、映画のロケ地としても利用されたこともある。



大垣市赤坂町の町並

所在地 大垣市赤坂町
 建造規模 木造 2 階建群
 屋根 瓦葺
 概要 旧中山道赤坂宿。谷汲街道との分岐点である四ツ辻周辺には矢橋家をはじめとする古い蔵造りの家、連格子の家などの旧家が多く残っている。



養老鉄道 養老駅

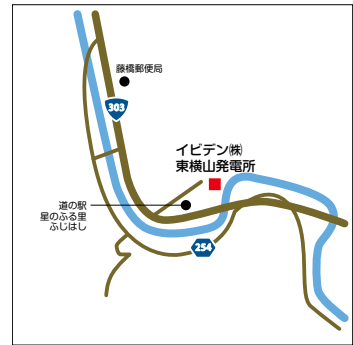
所在地 養老郡養老町鷺巣 1200
 所有 近畿日本鉄道株式会社
 建築時期 昭和 4 年頃
 建造規模 木造平屋建
 屋根 入母屋、日本瓦葺
 概要 瓦葺の入母屋屋根や養老鉄道（初代）の社章の入った鬼瓦は和風であるが、車寄せ柱上部の曲線の方杖や屋根上部の半円形のドーマーなどには洋風の要素も合わせ持つ、擬洋風建築である。





イビデン(株)東横山発電所

所在地 揖斐郡揖斐川町東横山 174-1
 所有 イビデン(株)
 建築時期 大正 10 年
 建造規模 RC 組積 3 階煉瓦造
 概要 建屋は揖斐川に面した赤レンガ造り。創建時の屋根は緩い勾配の鉄筋コンクリート造であったが今は赤いトタン屋根がかぶされている。



藤橋歴史民俗資料館 2号棟

所在地 揖斐郡揖斐川町鶴見 419 番地
 所有 揖斐川町
 建築時期 明治中期
 建造規模 木造平屋建
 屋根 茅葺
 外壁 漆喰・板張
 概要 屋根入母屋造茅葺、妻入、広間型の民家。紙漉部屋を持ったこの地域を代表する民家のひとつ。



藤橋歴史民俗資料館 3号棟

所在地 揖斐郡揖斐川町鶴見 419 番地
 所有 揖斐川町
 建築時期 宝暦 10 年 (1760) 頃
 建造規模 木造平屋建
 屋根 茅葺
 外壁 漆喰・板張
 概要 屋根入母屋造茅葺、妻入、広間型の民家。紙漉部屋をもったこの地方では最も古い民家のひとつ。



谷汲 (たにぐみ) 門前町の町並

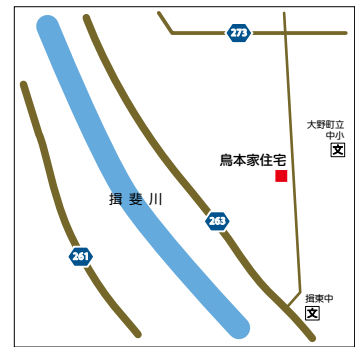
所在地 揖斐郡揖斐川町谷汲
 建築時期 明治～大正
 建造規模 木造 2 階建群
 屋根 日本瓦葺
 外壁 塗壁・板張
 概要 西国 33 番の最後の札所であり、谷汲の華厳寺の門前町。町並には古くからの商家風の家並が連なっている。





鳥本家住宅

所在地 揖斐郡大野町公郷 1851-2
所有者 個人
建造規模 木造平屋建
屋根 切妻日本瓦葺
概要 明治天皇が岐阜行幸の折に休憩所として建造された建築物を移築した。妻破風、出窓などのデザインが独自で斬新である。
備考 大野町指定文化財



石原家住宅

所在地 揖斐郡大野町下磯 15
所有者 個人
建築時期 明治 40 年
建造規模 木造 3 階建
屋根 日本瓦葺
外壁 漆喰
概要 楼閣風な明治に建てられた木造 3 階建ての建物。日本瓦葺入母屋造りで、漆喰塗りの壁は、城の様子をうかがわせる民家。
備考



大垣城ホール

所在地 大垣市郭町 2 丁目 53 番地
所有者 大垣市
建築時期 昭和 28 年
建造規模 鉄筋コンクリート 3 階建
屋根 切妻形式
外壁 吹付タイル
概要 大垣市スポーツセンターとして建設。飛行機格納庫を移築・2 次利用されたものでアリーナとして利用されている。
備考



黒野駅ミュージアム (旧黒野駅)

所在地 揖斐郡大野町黒野 560 番 4
所有者 大野町
建築時期 大正 15 年 (平成 25 年改修)
建造規模 木造 2 階建
屋根 切妻形式
外壁 板張、サイディング張
概要 元駅舎。廃線後、「黒野駅レールパーク」として一体的に再整備し、町民の公園や資料館として利用されている。
備考





旧さくら湯

所在地 大垣市墨侯町墨侯 52 番地
 所有 個人
 建築時期 昭和 28 年
 建造規模 木造・組石造 2 階建
 屋根 切妻形式
 外壁 タイル張・モルタル塗
 概要 タイルを多用した擬洋風の建物。昭和の銭湯としての特徴が残っているが現在は利用されていない。
 備考 大垣市景観遺産



奥田家水屋

所在地 大垣市墨侯町上宿 1415
 所有 個人
 建築時期 大正 10 年頃
 建造規模 木造 2 階建
 屋根 切妻形式
 外壁 カラー鉄板張
 概要 墨侯地区に残る唯一の水屋。住居型長屋門、主屋、庭、水屋を有する典型的な屋敷。石垣は当時の木曾川の川石を積んだもの。
 備考 大垣市景観遺産



金蝶園総本家 本店

所在地 大垣市高屋町 1-17
 所有 金蝶製菓合資会社
 建築時期 昭和 26 年
 建造規模 木造 2 階建
 屋根 入母屋形式
 外壁 しっくい塗
 概要 内装材は、ケヤキが使用され、看板は建造当初からのもので歴史を感じる。金蝶園のモチーフとなっている彫欄間も見ごたえがある。
 備考 大垣市景観遺産



都湯

所在地 大垣市錦町 48
 所有 個人
 建築時期 昭和 22 年
 建造規模 木造 平屋建
 屋根 切妻形式
 外壁 ラスモルタル塗
 概要 シンプルな外観に、素晴らしい内装がモザイクタイルで表現されている。建設当時の木札ロッカーや格天井もそのまま残っている。





大垣共立銀行本店

所在地 大垣市郭町3丁目98番地
所有 株式会社 大垣共立銀行
建築時期 昭和48年
建造規模 鉄骨鉄筋コンクリート造
 地下2階 地上17階建
屋根 陸屋根
概要 県内における超高層ビルの先駆け。超高層ビルとして日本建築センターによる審査を受けた県内第一号の建築物。
備考 大垣市景観遺産



大垣共立銀行新館

所在地 大垣市郭町3丁目98番地
所有 株式会社 大垣共立銀行
建築時期 昭和59年
建造規模 鉄骨造
 地上10階建
屋根 陸屋根
概要 大正期に建築された旧本店正面にあったイオニア式円柱を意識したデザインで、外観はポストモダンの建築様式を示す。
備考 大垣市景観遺産



青木医院旧診療所

所在地 揖斐郡大野町黒野713
所有 個人
建築時期 大正6年
建造規模 木造2階建
屋根 寄棟
外壁 板張
概要 板張りの和洋風建築。エントランスの柱が3本、1セットになっており特徴的。室内も洋風デザインが随所に見られる。



小森医院旧診療所

所在地 揖斐郡大野町黒野651-2
所有 個人
建築時期 大正8年
建造規模 木造2階建
屋根 寄棟
外壁 板張
概要 板張りの和洋風建築。2階は統一された縦長窓が配置され1階は曲線が使われた窓を配置するなどデザインにも工夫が見られる建物。



中濃地区



旧中山道太田宿

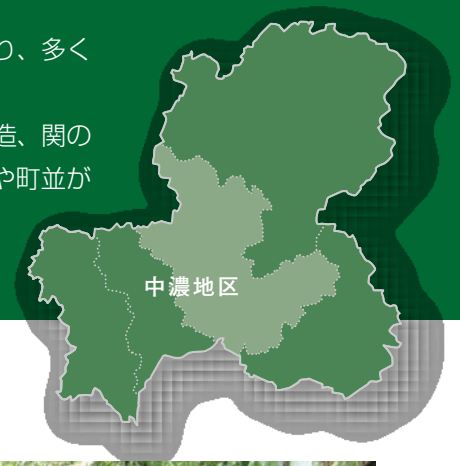
岐阜県内を通る中山道 17 宿のひとつ太田宿は江戸から 51 番目の宿場町で、4 町ほどの町並みは、新町、上町、中町、下町に分かれる。白壁の寺院の土塀、漆喰壁、お窓格子の町家がつらなり、古い宿場町の面影を残す。太田宿は益田街道との結節点でもあり、木曾川と飛騨川の合流点で川湊が設けられ、水陸交通の要所であった。江戸時代には本陣などの宿場施設も整備され、政治・経済の中核的な町として栄えた。「旧太田宿本陣門」、「旧太田宿本陣東門」は、国や美濃加茂市指定文化財として残る。



▲旧太田宿本陣門

県の中央部に位置し、木曾川水系の南部地域と長良川水系の北部地域からなり、多くの山々が連なる。

この地域は、古くから木曾川や長良川の豊かな美しい水に恵まれ、酒造・醸造、関の刀鍛冶、美濃和紙、郡上の藍染など地場産業が発達し、これら産業を商う町家や町並が繁栄してきた。また、同時に美濃、郡上は城下町として、中山道や益田街道では宿場町が形成され、今も往時の面影を残す。



郡上八幡の町並

長良川水系の上流に位置し、「宗祇水」に代表される「水の町」とも呼ばれる。郡上踊りで有名な郡上八幡は、八幡城の西側のふもとの柳町、職人町、鍛冶屋町の袖壁(袖うだつ)を紅殻格子の町並みが、昔ながらの水路や辻々の寺院とともに城下町風情をかもし出している。

柳町通りなどの街路脇を流れる用水路から各自の家屋に水を引き込み、利用後再び用水路に戻され、水田等の農業用水に使用される水循環を人工的に組み込んだ町である。職人町・鍛冶屋町通りの小道を入ったところに、室町時代の古今伝授の古事を伝える湧水の「宗祇水」がある。



▲水神の小祠

おもだかや民藝館（みんげいかん）



所在地 郡上市八幡町新町 929

所有者 個人

建築時期 明治初期

建造規模 木造 2 階建

屋根 切妻トタン葺

外壁 漆喰

概要

八幡町の町中を流れる「やなか水のごみち」沿いに建つ格子造りの建物で、八幡の面影を残しており現在は民芸館となっている。鮎を描いた文人画家として知られる故水野柳人の生家で、京都と同じく間口が狭く縦に長い町家の中には昔ながらの生活道具が陳列されているほか、柳人の作品や愛蔵品も展示する。併設の売店では、和柄布小物、美濃和紙、細工物などを扱っている。

大乘寺（だいじょうじ）山門



所在地 郡上市八幡町

所有者 大乘寺

建築時期 江戸時代（享和 4 年）

建造規模 鐘桜山門形式木造 2 階建
入母屋造

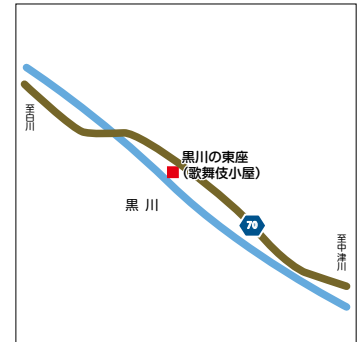
屋根 銅板葺

備考 郡上市指定重要文化財

概要

職人町の古い町並から小駄良川の清流をわたった位置に建つ市街地とは隔絶した感のある緑深い伽藍。鐘楼門は入母屋、銅板葺、一間一戸、四脚楼門で上層部は鐘楼堂、高欄付、江戸時代後期に建てられた楼門建築として貴重で、幾多の大火もくぐりぬけた貴重な建物であり、郡上市指定重要文化財に指定されています。

黒川の東座(あずまざ)(歌舞伎小屋)



所在地	加茂郡白川町黒川1584番地2
所有者	東座管理運営委員会
建築時期	明治22年
建造規模	木造平屋建
屋根	瓦葺
外壁	漆喰、板張

概要

小規模な芝居小屋だが、回り舞台・花道などを備えている。客席は1階と2階にあり収容人員600人。劇場形式の農村舞台である。明治22年に建てられた舞台の小屋組は日本風の建築であるが、客席部分は明治33年に建てられた一部洋風建築である。これは建築時期の違いによるもので、とても面白い建築となっている。

中山道御嶽宿商家竹屋



所在地	可児郡御嵩町御嵩1406番地 (中山道みたけ館隣)
所有者	御嵩町
建築時期	明治10年(1877)頃
建造規模	木造2階建
屋根	日本瓦葺
外壁	板張

概要

街道を人や物資が往来し、大きく賑わいをみせていた頃からの豪商として、宿場内での役割を果たしてきた。そのたたまいは、商家にふさわしい質素で風格のある造りが成され、今日では徐々に姿を消しつつある江戸時代の建築様式を色濃く残す建物といえます。分棟式ながら主屋にうまく接続された「炊事場」が増築されているこの建物は店舗を目的とした住宅とは異なる建物です。

宗祇（そうぎ）水のある町並



所在地 郡上市八幡町

概要

郡上八幡の城下町の町並。商人、職人の住家が多く、道路、水路等は昔の面影を残し建物と共に城下町の風情を醸し出している。

御師（おし）の里・石徹白（いとしろ）の町並



所在地 郡上市白鳥町石徹白地区

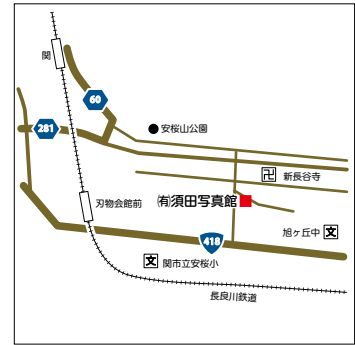
概要

特産である石徹白杉を多用した板壁の家が多い。集落は、門や塀がない開放的な雰囲気のある景観をつくりあげている。



(有) 須田写真館

所在地	関市西門前町1番地
所有者	個人
建築時期	大正11年
建造規模	木造3階建
屋根	吹付タイル
概要	建築当時、名古屋から職人をよびよせたり、北海道産の通し柱を使うなど、建物にかける情熱が、現在の姿からも伝わってくる。



タルヤ雑貨店

所在地	関市本町6丁目23番地
所有者	個人
建築時期	昭和7年頃
建造規模	木造3階建
屋根	瓦葺
外壁	カラー鉄板
概要	商店街の懐かしい雰囲気そのままに現在も営業している。屋根の下に軒が2層あり、3階建てであることが確認できる。



旧有知(ウチ)学校

所在地	美濃市泉町1864番地
所有者	宝勝院
建築時期	明治9年
建造規模	木造2階建
屋根	棧瓦葺
外壁	板張・漆喰
概要	明治に現在の小倉公園に建築された学校。寄棟二階建の洋風建築で、間口12間、3間×2.5間の教室を11室有していた。



旧中山道太田宿

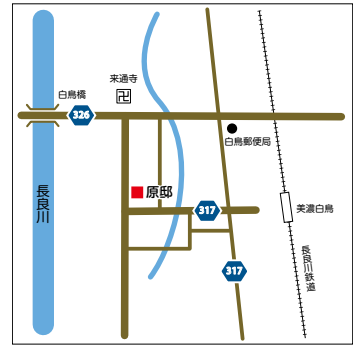
所在地	美濃加茂市太田本町
概要	市指定文化財の旧太田宿本陣門や重要文化財の旧太田脇本陣林家住宅など江戸時代の建物がある。





原邸

所在地 郡上市白鳥町白鳥 962 番地
 所有 個人
 建築時期 明治 40 年頃
 建造規模 木造 2 階建
 屋根 瓦棒葺
 外壁 漆喰
 概要 屋根は改修したが、ほぼ建立当時の姿が残る建物。町家らしい木格子や板葺の庇に竣工当時の雰囲気を十分に偲ぶことができる。



さんぷる工房

所在地 郡上市八幡町橋本町 956
 建築時期 江戸時代後期～明治期
 建造規模 木造 2 階建
 屋根 とたん葺
 外壁 漆喰
 概要 築170年頃の町家の外観を活かし郡上八幡を代表する地場産業のひとつである食品サンプルの創作館として利用されている。



布屋（ぬのや）原酒造場

所在地 郡上市白鳥町白鳥 991 番地
 所有 個人
 建築時期 大正 12 年
 建造規模 木造 2 階建
 屋根 ステンレス葺
 外壁 漆喰
 概要 袖壁を従えた大柄な町家建築。間口も広く見応えがする。奥にあった蔵は消失を免れ、現在でも仕込みを行っている。



大船（おおふね）神社（阿弥陀坂）

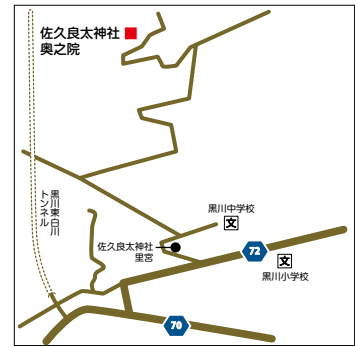
所在地 加茂郡八百津町八百津
 所有 大船神社
 建築時期 元禄初年頃
 概要 八百津祭りの「だんじり」祭りを演出する自然の舞台として 300 余年にわたって使われている。





佐久良太神社奥之院

所在地 加茂郡白川町黒川7568番地
 所有者 佐久良太神社
 建築時期 文政8年
 建造規模 単層入母屋
 概要 この地域にある佐久良太神社の中で最も古い建物。細部の装飾が入念であり匠の高度な技術力がうかがえる。



信洲屋本店

所在地 美濃市加治屋町2027-4
 所有者 個人
 建築時期 大正初期
 建造規模 木造2階建
 屋根 入母屋連棟
 外壁 真壁漆喰
 概要 入母屋が連棟となった屋根が特徴的な伝統工法家屋で、全体として重厚さが感じられる。存在感がある建物。



富加駅本屋

所在地 加茂郡富加町羽生1708-1
 所有者 長良川鉄道(株)
 建築時期 大正12年
 建造規模 木造平屋建
 屋根 切妻形式
 外壁 板張
 概要 大正期に建てられた和洋折衷の建物外観がよくわかる昔ながらの駅舎。



可児駅本屋

所在地 可児市下恵土1254
 所有者 東海旅客鉄道株式会社
 建築時期 大正7年
 建造規模 木造平屋建
 屋根 切妻形式
 外壁 サイディング張
 概要 駅舎。木造躯体は建設当時のままであるが、屋根、外壁等は改修が加わっている。昔ながらの駅舎。



東濃地区



旧中山道大井宿

近世中山道は東海道の裏街道の役割を果たしていたが、江戸幕府の公道として整備され、東濃地方では細久手、大湫、大井、中津川、落合、馬籠の各宿場町があり、大井宿はこのなかでも最大級。宿場には本陣（門だけが現存）と脇本陣、問屋場、旅籠、茶屋、木賃宿などがあつた。横町、本町、竪町、茶屋町、橋場（榎町）から成り、町筋はかぎ形の「柵形」でほぼ直角に結びついていた。柵形は6箇所あり独特の宿場町の町並みを形成している。本町には長く庄屋を勤めたひし屋（古山家）が、竪町には古屋家が残る。この他宿役人の家なども往時の大井宿を偲ばせる。

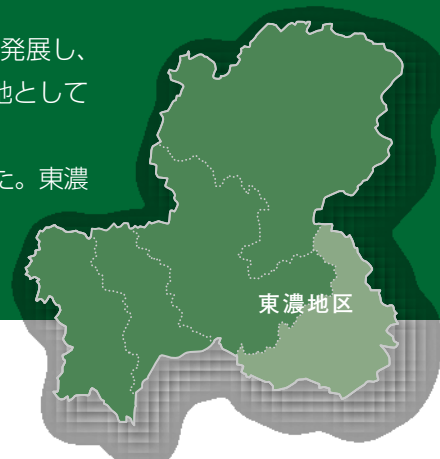


▲大井宿の町並

県の東南部に位置し、西部地域は古くから陶土の入手が容易で陶磁器産業が発展し、美濃焼として日本でも有数の陶磁器の生産地である。東部地域は、東濃檜の産地として有名な山間部と南部の丘陵地帯から成る。

土岐川沿いに中山道が走り、人の往来、物流、文化・情報の交流も盛んであった。東濃一帯を長い間治めた豪族土岐氏により、岩村は城下町として栄えた。

岐阜県は地歌舞伎の団体数が全国一を誇り、この地区にも多数の舞台小屋がある。



岩村の町並

東濃一帯は中世より豪族土岐氏によって長く治められ、江戸時代には岩村藩が置かれ、明治の廃藩まで政治経済・文化の中心として栄えた。岩村川によって南は町人町、北は武家屋敷に区切られ、その上町には藩主屋敷があり、日本一高いところにあった山城だった。

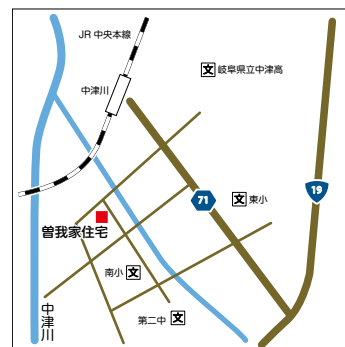
町人町には旧家が多く残り、建物の特徴は、平入りで、厨子二階又は二階建て、通りの坂道に沿って軒の高さが揃い、連坦して建っている。敷地内には中庭を設け、奥に離れ座敷、土蔵があるものが多い。

岩村町の岩村本通りは商家の町並みとして、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。



▲岩村の町並

曾我家住宅

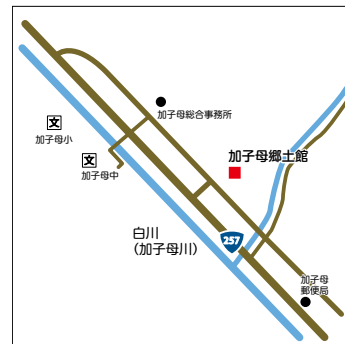


所在地 中津川市本町2丁目6番44号
 所有 個人
 建築時期 江戸時代
 建造規模 木造 2階建
 屋根 日本瓦葺
 外壁 板張
 備考 中津川市有形文化財(建造物)

概要

庄屋宅として建設。明治中期以降に内部が一部改修されている。とくに細工がよく、付属する庭園は東濃随一といわれている。

加子母郷土館（旧加子母村役場）



所在地 中津川市加子母上桑原
 所有 中津川市
 建築時期 明治 27年
 建造規模 木造 2階建
 屋根 瓦葺
 外壁 漆喰
 備考 有形文化財

概要

明治 27年(1894) に村役場として建築されたものを、昭和 60年(1985) に改装して郷土館にしたもの。

常盤座



所在地 中津川市高山 1026-1
所 有 中津川市
建築時期 明治 24 年
建造規模 木造平屋
屋 根 日本瓦葺
外 壁 板張
備 考 中津川市指定重要文化財

概 要

入母屋、妻入りの形式。舞台規模は間口 11.2m、奥行 8.3m で、回り舞台を備えた農村歌舞伎の芝居小屋。

櫻堂薬師本堂



所在地 瑞浪市土岐町櫻堂
所 有 櫻堂区
建築時期 寛文 7 (1667) 年
建造規模 木造平屋建
屋 根 銅板葺
外 壁 板壁
備 考 瑞浪市有形文化財

概 要

櫻堂薬師は 812 年創建と伝えられる古刹。本堂は 1571 年に焼討ちに遭い焼失し、現在の本堂が再建されたとされる。

櫻堂薬師仁王門



所在地 瑞浪市土岐町櫻堂

所有 櫻堂区

建築時期 江戸時代初頭

建造規模 木造平屋建

屋根 日本瓦葺

外壁 板壁

概要

櫻堂薬師本堂の北西に所在する仁王門。仁王像2 軀が納められている。

櫻堂薬師芝居舞台



所在地 瑞浪市土岐町櫻堂

所有 櫻堂区

建築時期 江戸時代末～明治時代

建造規模 木造平屋建

屋根 日本瓦葺

外壁 漆喰・板張

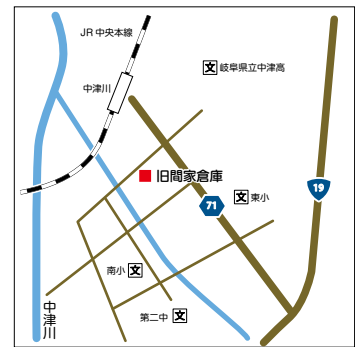
概要

櫻堂薬師本堂南に所在する芝居舞台で、廻り舞台を備える。



旧間家倉庫

所在地 中津川市中津川 1940-4
 所有 中津川市
 建築時期 大正6年頃
 建造規模 鉄筋コンクリート3階建
 屋根 日本瓦葺
 外壁 レンガ、モルタル
 概要 豪商間家の倉庫として建設。西洋建築様式と和風建築様式の両方が用いられた大正期の鉄筋コンクリート3階建の建物。
 備考 中津川市有形文化財(建造物)



開元院山門

所在地 瑞浪市日吉町 8846 番地
 所有 曹洞宗開元院
 建築時期 享和元年(1801)年
 建造規模 木造2階建
 屋根 銅板葺
 外壁 板壁
 概要 1439年開山とされる古刹。山門は三間一戸の楼間形式で、上層には組高欄を廻し、屋根は入母屋である。
 備考 瑞浪市有形文化財



天猷寺(てんにゅうじ)ハナノキ門

所在地 瑞浪市金戸町 1517-1
 所有 天猷寺
 建築時期 天保6(1835)年
 建造規模 木造2階建
 屋根 日本瓦葺
 外壁 板壁
 概要 垂木は鎌倉型とよばれる特殊な技法を用いており、扇形を呈する。材はすべてハナノキが使用され、国内唯一のハナノキ門であるとされる。
 備考 瑞浪市有形文化財



明智回想法センター

所在地 恵那市明智町 1142-1
 所有 恵那市
 建築時期 本館昭和26年、別館明治43年
 建造規模 木造2階建
 屋根 葺瓦葺
 外壁 南京下見板張
 概要 元産婦人科医院の建物であり、本館、別館、離れで構成されている。現在は、明智回想法センターとして活用されている。





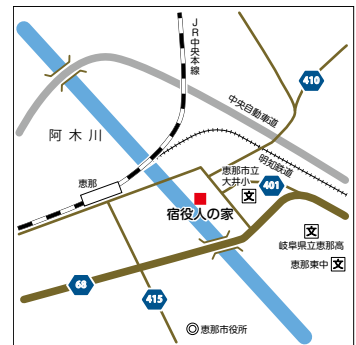
逓信資料館 (ていしんしりょうかん) (旧明智郵便局)

所在地 恵那市明智町 1862-4
 所有者 個人
 建築時期 明治 8 年頃
 建造規模 木造 2 階建
 屋根 葺瓦葺
 外壁 漆喰、腰板張
 概要 明治に開局した元郵便局。
 大正時代になり欄間風の彫り物を加えたり、局舎全体を青くペンキ塗りするなどした数少ない大正モダン建築。



宿役人の家

所在地 恵那市大井町下本町 76
 所有者 個人
 建築時期 江戸時代
 建造規模 木造 2 階建
 屋根 切妻造葺瓦葺
 外壁 土壁 (黒色)
 概要 当時の間取りも明確であり濃尾震災後に増築されているが、2棟の土蔵と明治天皇行幸の際の御膳水に使われた井戸も保存されている。



古屋家住宅

所在地 恵那市大井町縦町 101
 所有者 個人
 建築時期 江戸時代
 建造規模 木造平屋建
 屋根 切妻造葺瓦葺
 外壁 土壁 (黒色)、腰板張 (黒色)
 概要 外壁が塗籠とされているこの建物は旧宿内では他に例をみない。主構造は昔のままと言われ、比較的太い木材を使っている。主屋の北側には卯建が付いた座敷も接続されている。



中山道ひし屋資料館 (旧古山家住宅)

所在地 恵那市大井町本町 60-1
 所有者 恵那市
 建築時期 明治初期
 建造規模 木造 2 階建
 屋根 葺瓦葺
 外壁 黒漆喰腰板張
 概要 古山家は、江戸時代に大井村の庄屋を務めていた家柄で、「菱屋」の屋号を持っていた。江戸時代の庄屋屋敷の形態を一括して残している。





日本大正村資料館

所在地	恵那市明智町 1860-7
所有者	恵那市
建築時期	西棟明治 43 年 東棟大正 7 年
建造規模	木造百畳敷 4 階建
屋根	棧瓦葺
外壁	漆喰、腰板張
概要	明治 13 年 (1880) 設立の濃明銀行の倉庫として竣工し、西棟及び東棟の二棟で通称銀行蔵という。
備考	恵那市有形文化財



五毛座 (地芝居小屋)

所在地	恵那市飯地町
所有者	飯地自治区協議会
建築時期	昭和 26 年
建造規模	木造 2 階地下 1 階
屋根	棧瓦葺
外壁	南京下見板張
概要	もと公民館兼地芝居小屋として建設。昭和 58 年より歌舞伎専用の施設。内部は両花道を備えた舞台や、客席として平土間、1 階・2 階 棧敷席を設けている。



笹乃家温泉旅館

所在地	恵那市明智町 1270-2
建築時期	明治 40 年
建造規模	木造 3 階建
屋根	棧瓦葺
外壁	土壁、目板張
概要	明智町で初の料理旅館である。大正 10 年に喫茶兼スナックに改装されたが 1 階部分は、現在も大正時代の雰囲気溢れる空間となっている。



多治見輸出陶磁器完成協同組合

所在地	多治見市昭和町
所有者	法人
建築時期	大正又は昭和初期
建造規模	木造地下 1 階地上 2 階建
屋根	切妻 (中央)・陸屋根 (左右)
外壁	スクラッチタイル張
概要	外壁に地場産業のスクラッチタイル、内部の床や壁にもタイルがふんだんに用いられた特徴的な建造物。



飛騨地区



高山の町並

高山は「小京都」と呼ばれているが、道路は格子状ではなく南北通りを主軸とする町筋と南北町筋を連絡しあう形で東西道路が通っている。

各戸の敷地は、道路に面して短冊状に宅地割が行われており、奥行の深い主屋配置である。多くの家では土蔵を持ち、主屋からやや離して裏手に建てられている。

町並みの特徴は、平入で、多くの家は2階建てか屋根裏を持つ中2階建てで、腰に小庇を持ち、取り付け高さも一定で、連続する水平線が統一感を与えている。

市内を流れる宮川に並行して南北にのびる上二之町、上三之町の通りを中心に高山市三町伝統的建造物群保存地区の指定を受けている。



▲伝統的な高山格子と連格子

県の北部に位置し、北アルプス連峰、白山連峰などに囲まれた山岳地帯。

山国であるため稲作農業は少なく、林業や養蚕業が盛んに行われた。また、飛騨街道、越中街道、木曾街道などにより物流や文化交流がなされ、各地で町家や地場産業も発達した。さらには、世界遺産の白川郷、古い町並みの高山・古川や温泉街として有名な下呂温泉などが存在する。



古川の町並

町並みは木造の建物が連続し、寺社、屋台庫、町家などが並ぶ。さらには、白壁土蔵と瀬戸川の調和のとれた町並みを形成し美しい景観を作り出している。

この町は、大火もあったが地元の人々の努力により復興され、同時に多くの大工も育った。木造で建物をつくるのが当たり前という「そうば」の共通認識が人々の間にあったためである。建物は、木造真壁平入、屋根勾配も3~4寸、軒の出は深く造られ、冬の大雪に備え軒を支える腕木がつく独特の形態がとられた。その先端には大工が独自の「雲」と呼ばれる模様を施すのも特徴である。



▲古い商店が並ぶ老之町

田上家住宅（匠の館）

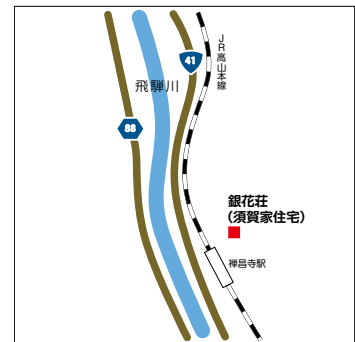


所在地	高山市丹生川町根方 532
所有者	個人
建築時期	明治 15 年頃
建造規模	木造 2 階建
屋根	日本瓦葺、切妻造
外壁	白壁真壁造、腰：板張
備考	高山市指定文化財

概要

主屋正面は真壁のデザインを基調としつつも隅切り窓を入れるなど、近代に入ってからの様式も取り入れているほか、出桁を受ける腕木は「雲」と呼ばれる意匠を施した持ち送りが支えている。一尺角の大黒柱と、四間ものと呼ばれる松の巨木を使った豪快な梁に圧倒される。本座敷には付書院を持った本式の床の間があり、黒漆塗りの床框、違い棚といった設（しつら）えがしてある。その他にも欄間の透かし彫りや襖絵など、山間の農家とは思えない贅を凝らした造りとなっている。

銀花荘（須賀家住宅）



所在地	下呂市萩原町中呂 334
所有者	個人
建築時期	明治 41 年
建造規模	木造 2 階建
屋根	切妻造陶器瓦葺
外壁	漆喰

概要

須賀家邸は、この地域の伝統的な建築家屋、「益田造り」を今に伝えています。主屋、表蔵、北蔵の 3ヶ所が国の登録有形文化財にもなっており、飛騨の良質な木材を使い、部屋数も 15 畳の二室を含め 15 室あり、畳数も 100 枚を超えています。くぐり戸に土間囲炉裏など、当時の姿を今に伝える貴重な建物。

湯之島館



所在地	下呂市湯之島 645
所有者	飛騨川温泉土地(株)
建築時期	昭和 6 年
建造規模	木造 3 階建
屋根	日本瓦葺
外壁	黒漆喰
備考	国登録有形文化財

概要

創業昭和 6 年当時の玄関、渡り廊下、木造三階建て本館は登録有形文化財に登録されている。江戸時代、徳川家の御用林であった山の中腹の広大な敷地の中に建てられており、厳かで自然と調和した建築となっている。和風建築と洋風建築、木造建築と鉄筋コンクリート造建築を融合し、館内客室随所に様々な意匠が施されたこの名建築は丹羽英二による設計である。部屋ごとに飛騨の名工が想いを込め、随所に銘木を使用し、目に見えぬ細部にいたるまで技術にこだわり建てられたもので、簡素でありながら品位がある。

旧田中家住宅（丹生川民俗資料館）



所在地	高山市丹生川町方 1442 番地
所有者	高山市
建築時期	江戸末～明治初期
建造規模	木造 2 階建
屋根	大屋根：鉄板瓦葺 下屋：日本瓦葺(背面鉄板葺)
外壁	大津壁

概要

江戸末期から明治初年ころの建築といわれるこの田中家住宅は、昭和 62 年に旧丹生川村が購入し、翌年大改修を行った。桁行十一間（20m）梁間八間（14.4m）、二階建ての大型農家といえる。間取りもこの地方の代表的な配置で、デエ、小座敷、中二階、廊下のケヤキなどはかなり贅沢な造りがなされている。

加藤家住宅



所在地 下呂市金山町下原町 188

所有者 個人

建築時期 明治 3 年

建造規模 木造 2 階建

屋根 日本瓦葺

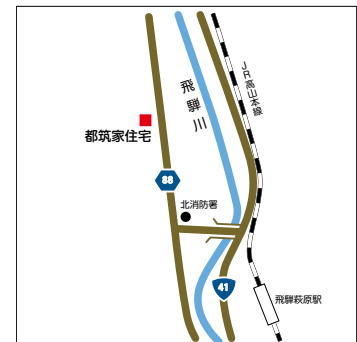
外壁 漆喰

備考

概要

大正末期まで、生糸とお茶問屋を営む商家であったが、現在は住宅として使用。東側には類焼を防ぐ為の防火壁がある。

都筑家住宅



所在地 下呂市萩原町羽根 1344

所有者 個人

建築時期 1580 年頃

建造規模 木造 2 階建

屋根 切妻鉄板葺

外壁 漆喰

備考 登録有形文化財

概要

南飛騨地方を代表する養蚕農家の造り。1580 年頃に建てられたと伝えられる 118 坪の建坪を持つ 2 階建民家。障子を外せば 90 畳の大広間になる。

清原家住宅（小坂町郷土館）



所在地	下呂市小坂町湯屋
所有者	下呂市
建築時期	文政年間（1818～1830）
建造規模	木造 2 階建
屋根	鉄板葺
外壁	漆喰
備考	下呂市指定文化財

概要

格式ある農家。大黒柱や太梁には小坂のヒノキを使用。現在は、飛騨の生活文化を伝える郷土館になっている。

日下部味噌醤油醸造煉瓦館



所在地	高山市上一之町 93
所有者	日下部味噌醤油醸造(株)
建築時期	大正 10 年
建造規模	レンガ造 2 階建
屋根	日本瓦葺
外壁	レンガ
概要	以前は豪商日下部一族の味噌醤油の工場内に建つ蔵であった。外観がレンガで造られた現存している数少ない蔵として貴重な建物。
備考	景観重要建築物



川尻家住宅



所在地	高山市漆垣内町 605
所有者	個人
建築時期	明治時代
建造規模	木造 2 階建
屋根	日本瓦葺
外壁	黄色土塗壁腰・板張
概要	田園地帯の農家集落の中にあり、土蔵を併設。外部、内部とも保存状態が良く、格子と外壁色のコントラストが素晴らしい。





岡田家住宅板倉

所在地	高山市荘川町六蔵 495
所有者	個人
建築時期	江戸時代
建造規模	木造 2階建
屋根	セメント瓦切妻造
外壁	板張
概要	建築当時は、穀物主体の蔵であった建物で、屋根は登木を架け、母屋に野地板を打ち付け、種木を使用しない工法であり、三戸前の板蔵としては村内唯一である。
備考	高山市指定文化財



三木家住宅

所在地	高山市一之宮町山下中 625
所有者	個人
建築時期	大正 2年
建造規模	木造 2階建
屋根	切妻造日本瓦葺
外壁	土塗真壁
概要	飛騨の代表的農家、大地主の家で、用材、造作とも立派。現在までくるいを生じておらず4つの出居の有る家としても有名。



千鳥格子の御堂

所在地	高山市荘川町六蔵 158-3 (くるまーと六蔵内)
所有者	六蔵千鳥格子保存会
建築時期	慶長
建造規模	木造平屋建
屋根	板葺
外壁	板張
概要	小間返しの格子組で、千鳥になっており、「大蔵の了宗寺」を建てた棟梁がこの辻堂を建てたとされている。
備考	町指定文化財



飛騨「荘川の里」

所在地	高山市荘川町新測字三之松
所有者	高山市
建築時期	江戸時代末期～明治時代
建造規模	木造
屋根	茅葺、一部瓦葺
外壁	白漆喰塗、板壁化粧貫
概要	平入り荘川造りと呼ばれるもので、屋根は奇様式入母屋合掌造りの茅葺の建物。
備考	荘川の里の中に住宅があります。 木下家：高山市指定文化財 渡辺家：高山市指定文化財 山道家：高山市指定文化財 宝蔵寺：高山市指定文化財 三島家：岐阜県指定文化財





高山豊明台（ほうめいたい）組の町並

所在地 高山市大新町
概要 漆喰の塗壁と面格子、板塀の情緒がある町並み。
備考 伝統的建造物群保存地区



フナツフォト

所在地 飛騨市神岡町船津 2049-15
所有 個人
建築時期 昭和 8 年
建造規模 木造 2 階建
屋根 切妻（亜鉛引鉄板）
外壁 モルタル洗い出し
概要 東京のオリエンタルスタジオを参考にし、内外装ともにデザイン、工夫がこらされていて当時の姿を残す。



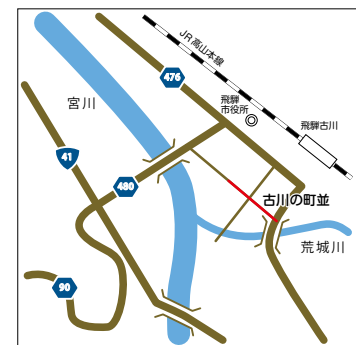
屋台蔵

所在地 飛騨市古川町二之町13番18
所有 飛騨市
建築時期 明治 15 年
建造規模 木造平屋建
屋根 トタン葺
外壁 漆喰
概要 祭りの屋台を収納するために造られた蔵。高い壁を漆喰で造り町並みと調和のとれた建物。



古川の町並

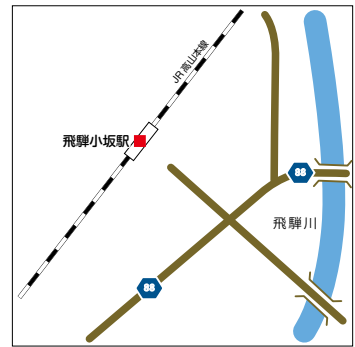
所在地 飛騨市古川町
概要 北側の山々を背景に、中心部が基盤目の街路網の町並みで、鯉がすむ水路や川の水辺景観とともに、町家は飛騨の伝統様式の木造建築で統一した景観をつくりだしている。





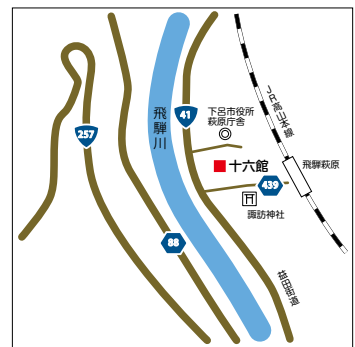
飛騨小坂駅

所在地 下呂市小坂町大島 1876
 所有 東海旅客鉄道(株)
 建築時期 昭和 8 年
 建造規模 木造平屋建
 屋根 切妻鉄板葺
 外壁 杉丸太
 概要 駅舎外観は、杉丸太を斜めに外壁に張り付け、車寄せの屋根は干木を模した独特な意匠である。沿線の駅舎の中でも特徴のある建築物。



十六館

所在地 下呂市萩原町萩原 1359-1
 所有 下呂市
 建築時期 明治 44 年
 建造規模 RC 造平屋建
 屋根 日本瓦葺
 外壁 漆喰
 概要 明治期の地方銀行でよく見られた土蔵造の銀行建築。玄関部分など一部改変があるが、全体としては当時の姿をとどめている。



清水楼

所在地 下呂市金山町
 所有 個人
 建築時期 明治 8 年
 建造規模 木造 3 階建
 屋根 日本瓦葺
 外壁 漆喰
 概要 旧飛騨街道の宿場町である金山宿として栄えた時代から料理屋として建てられ明治に改築された建物。



鳳凰座

所在地 下呂市御殿野 76-1
 所有 御殿野区
 建築時期 文政 10 年
 建造規模 木造 2 階建
 屋根 日本瓦葺
 外壁 漆喰
 概要 江戸時代に日枝神社の境内にあった拝殿型の舞台を現在の場所に移築。鳳凰が翼を広げたように客席が左右階段状に広がり舞台が見やすい造りとなっている。





旧蒲たばこ店

所在地 高山市本町2丁目6
 所有 個人
 建築時期 昭和2年
 建造規模 木造2階建
 屋根 切妻形式
 外壁 土塗壁
 概要 この地域の当時の商家。ショーウィンドウ・家具も当時のまま。吹き抜けがあり、冬季には、梁上に障子戸を載せ、寒さ対策を行っていた。



三ノ町倶楽部

所在地 高山市上一之町45
 所有 個人
 建築時期 昭和23年
 建造規模 木造2階建
 屋根 切妻形式
 外壁 モルタル・リシン吹付
 概要 店舗併用住宅として建築された。木造モルタル塗の擬洋風建築。正面ファサードの木製建具が当時の雰囲気を残している。



櫻山八幡宮 櫻山日光館

所在地 高山市桜町178
 所有 法人
 建築時期 昭和43年
 建造規模 鉄筋コンクリート造2階建
 屋根 連続切妻
 外壁 コンクリート外壁
 (プレキャストコンクリート造)
 概要 屋台を展示するために建築され、校倉造風の外観と連続する切妻屋根が特徴的なデザイン。市内における初期のRC造大型建造物。



飛騨国府駅本屋

所在地 高山市国府町広瀬町字石原
 所有 東海旅客鉄道(株)
 建築時期 昭和9年
 建造規模 木造平屋建
 屋根 切妻形式
 外壁 板張
 概要 駅舎。現在は無人化されているが、国鉄当時の木造駅舎がほぼ原形に近いままで利用されている。

